

「公共施設等更新費用試算ソフト」による将来費用の推計

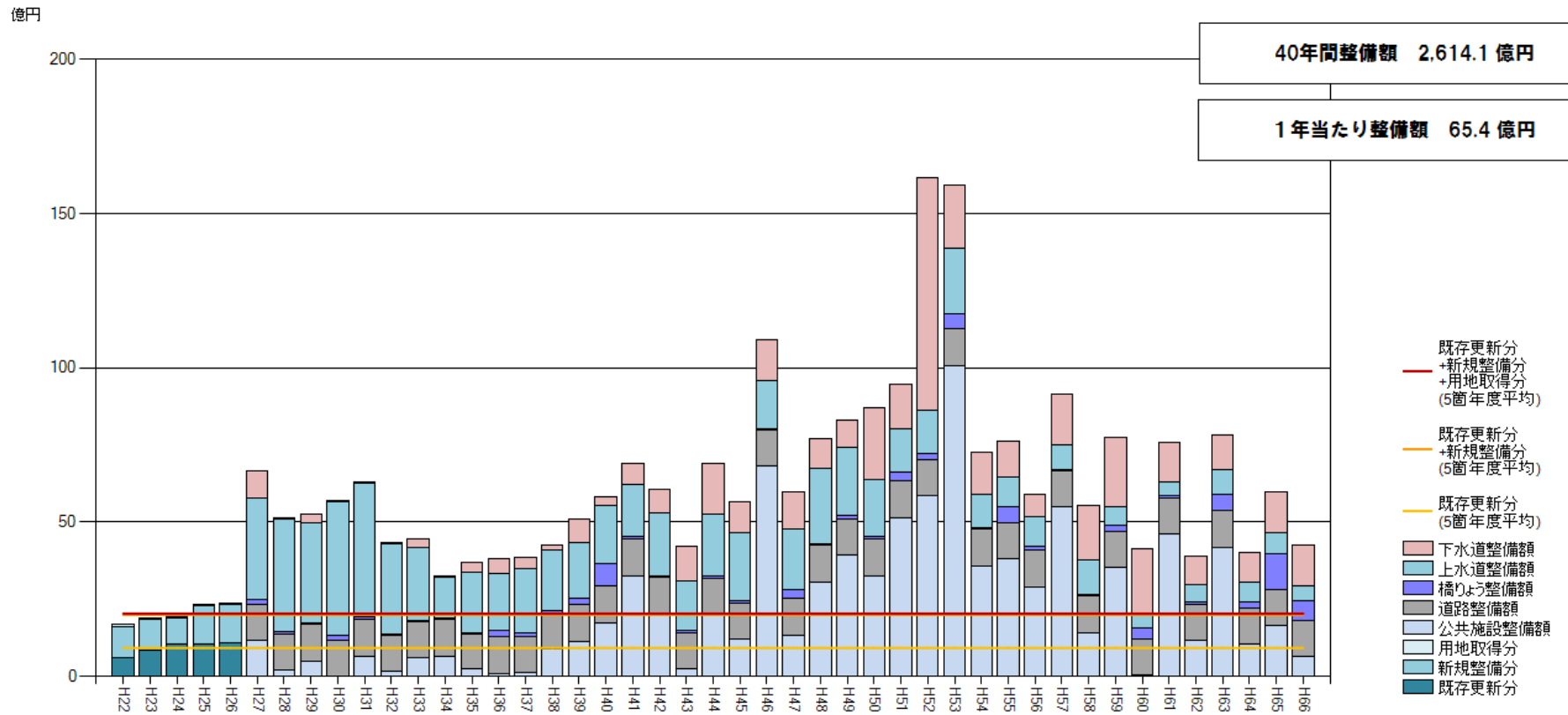
※ 総務省HPで公開されている公共施設更新費用試算ソフト（ウィンドウズアプリ版）

基準年月日
推計の条件

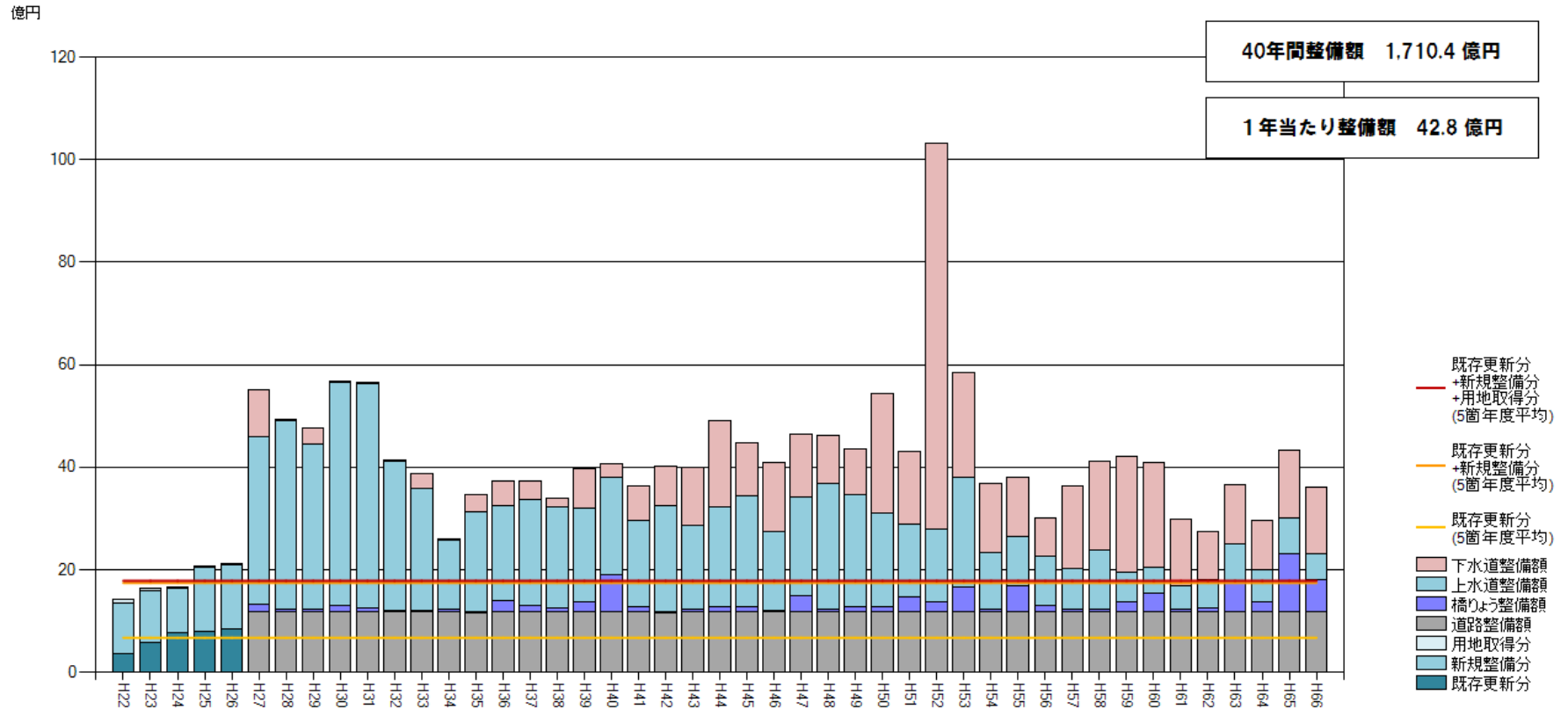
平成27年4月1日現在
ソフト初期設定値を使用
ただし、ハコモノは再配置計画に基づけるよう任意に設定

公共施設再配置推進課
平成27年11月25日

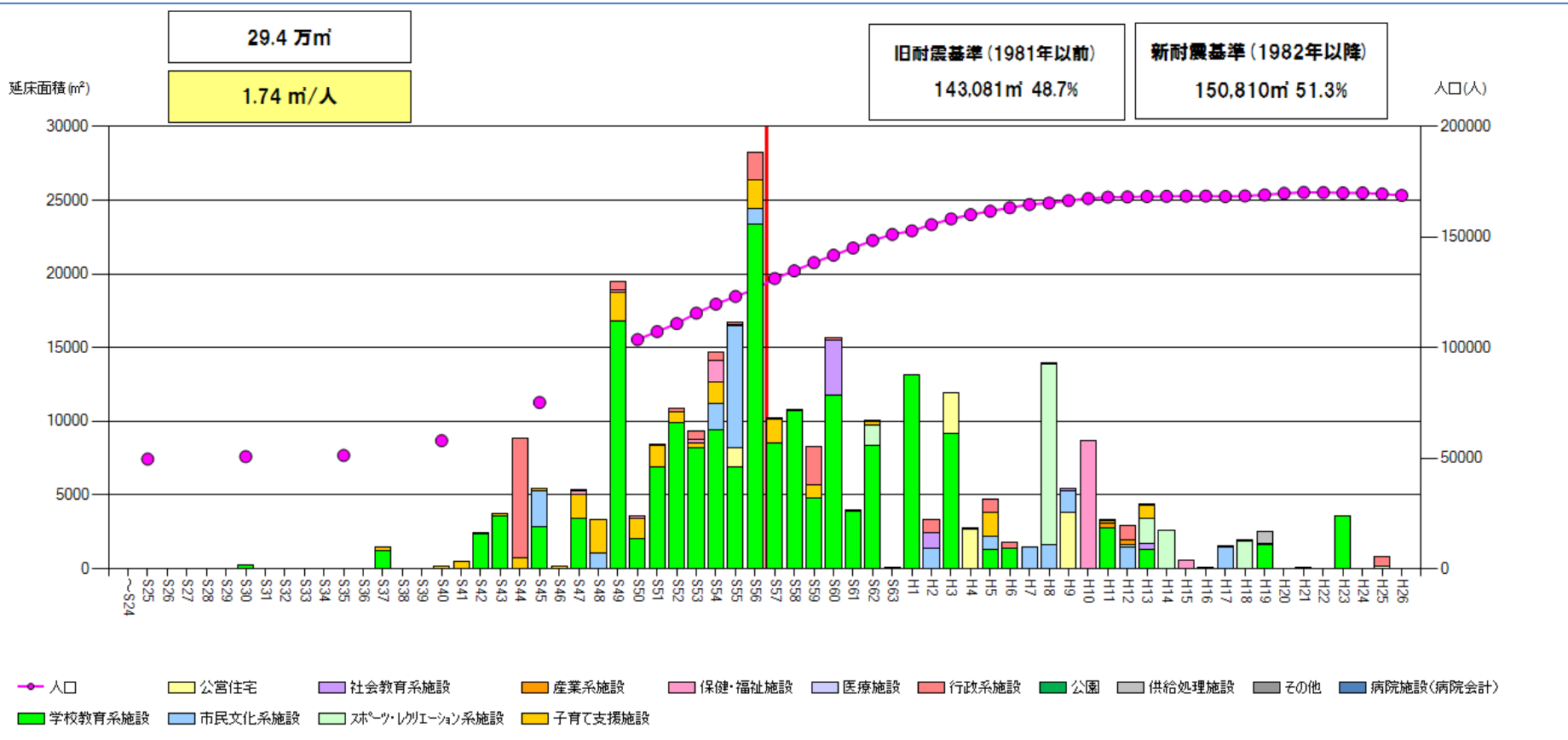
将来の更新費用の推計(公共施設 + インフラ資産)



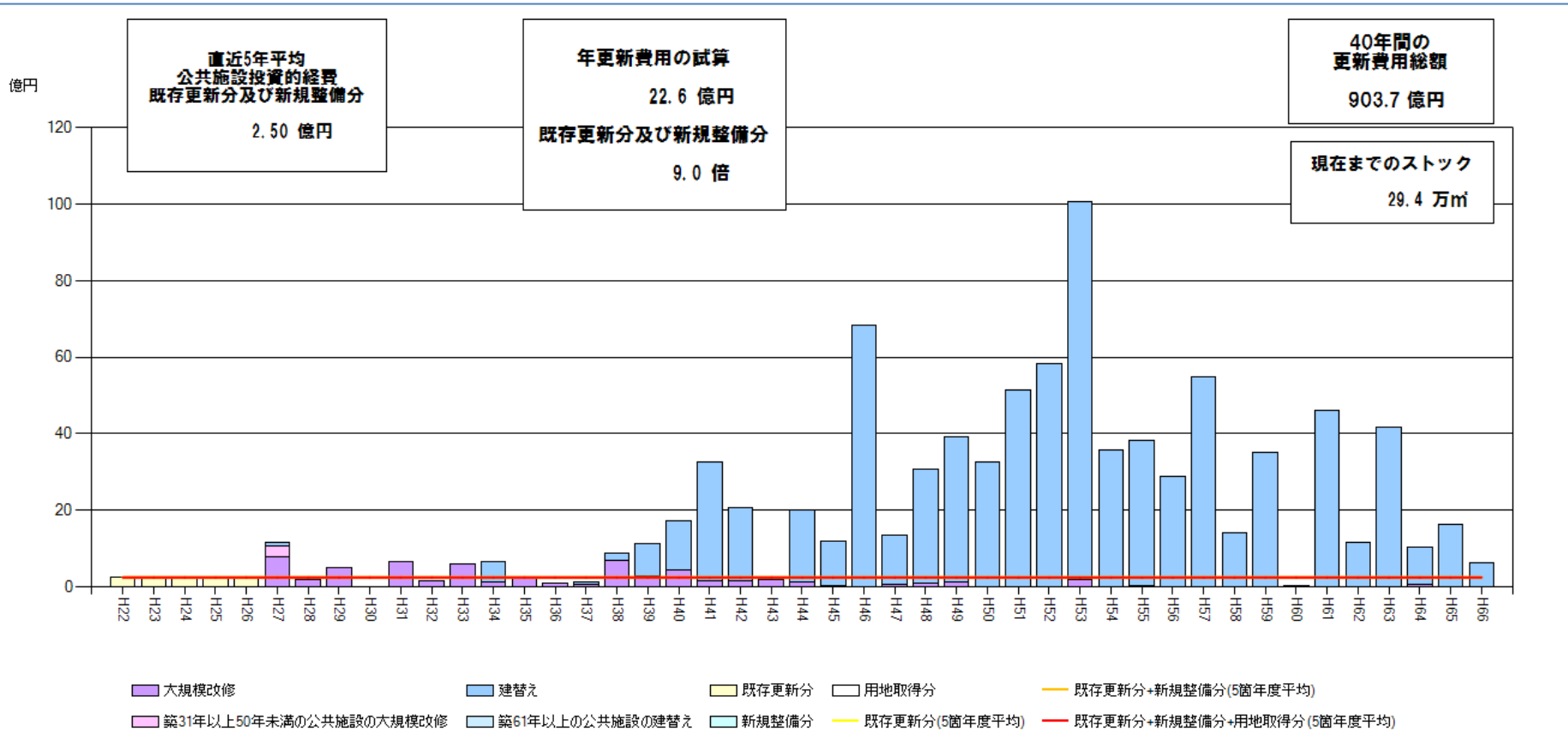
将来の更新費用の推計(インフラ資産 道路+橋りょう+上下水道)



公共施設 年度別整備延床面積(※ 上下水道施設を除く H27)



将来の更新費用の推計(公共施設) 公共施設再配置計画



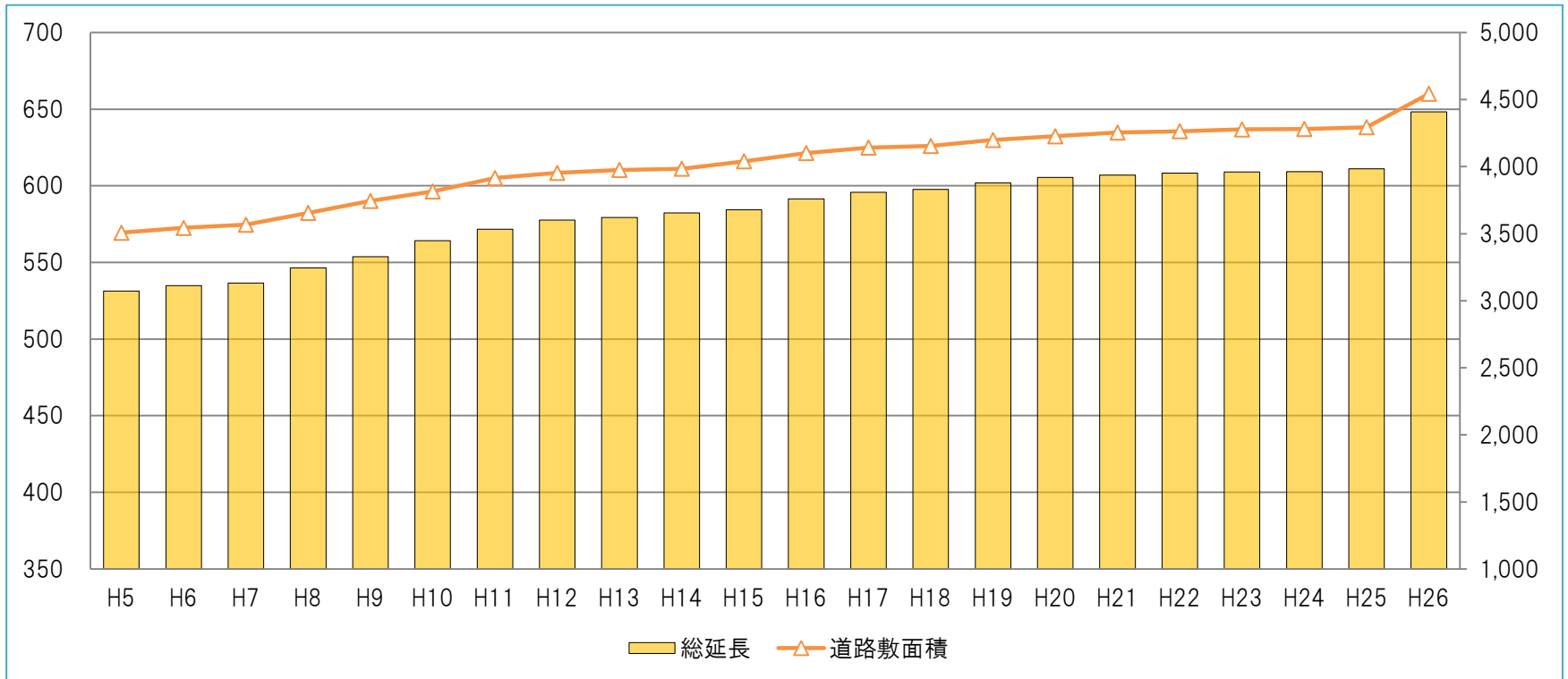
更新年数「建替え」60年(鉄筋コンクリート造)
更新費用「建替え」35万円/㎡

「大規模改修」30年(鉄筋コンクリート造のみ)
「大規模改修」5万円/㎡

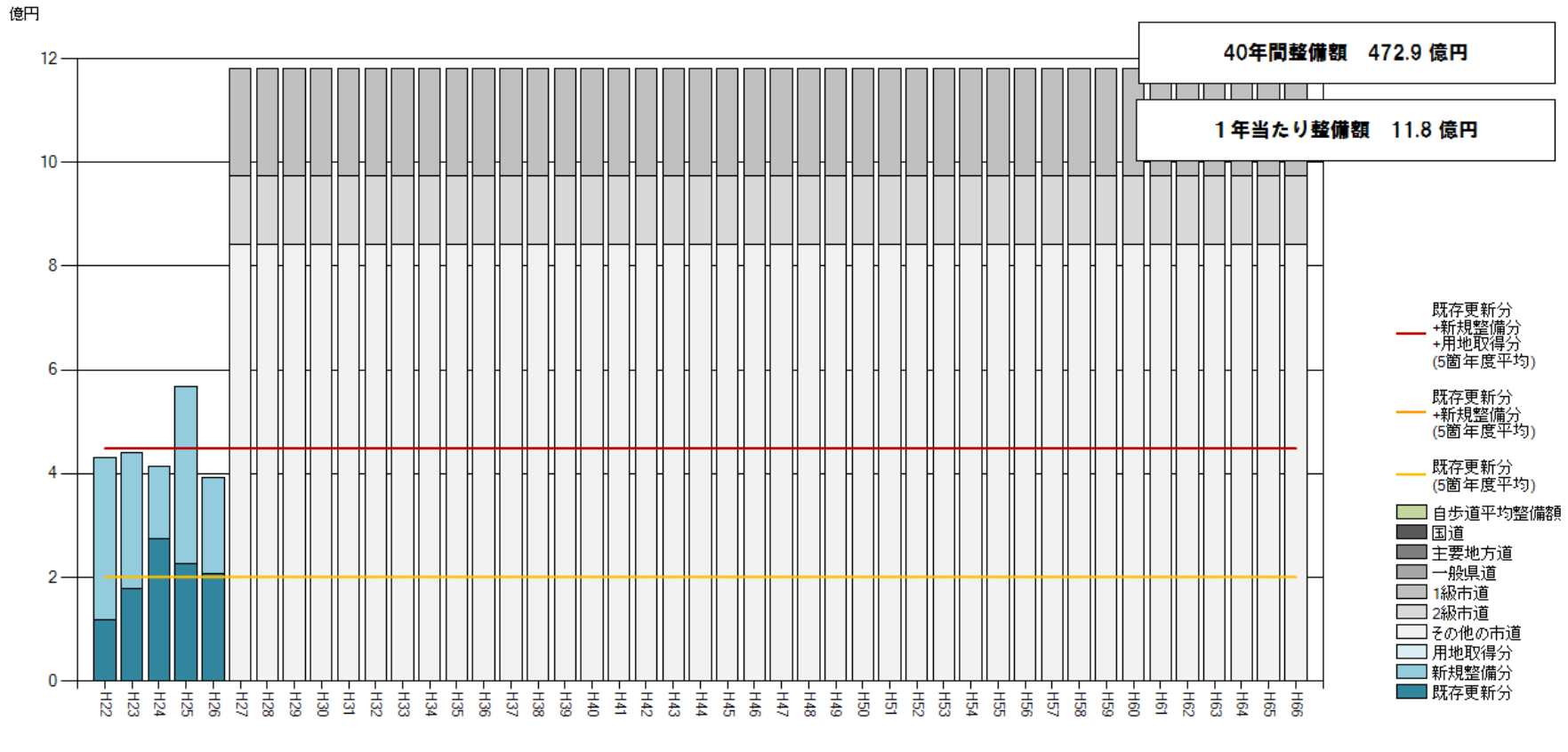
※ 再配置計画 758億との違い

- ・この試算では、現施設と同面積での建替えを想定しているが、再配置計画の試算では、学校について、子どもの数が減少することを見込み、施設面積を建替え時に縮小した面積で推計していること(178千㎡⇒133千㎡ 約150億)
- ・対象施設は、27年4月時点での数量。
- ・改修について、27年までに築30年を超える施設の改修は終了しているものとみなした。

道路(市道) 年度別整備面積



将来の更新費用の推計(道路)



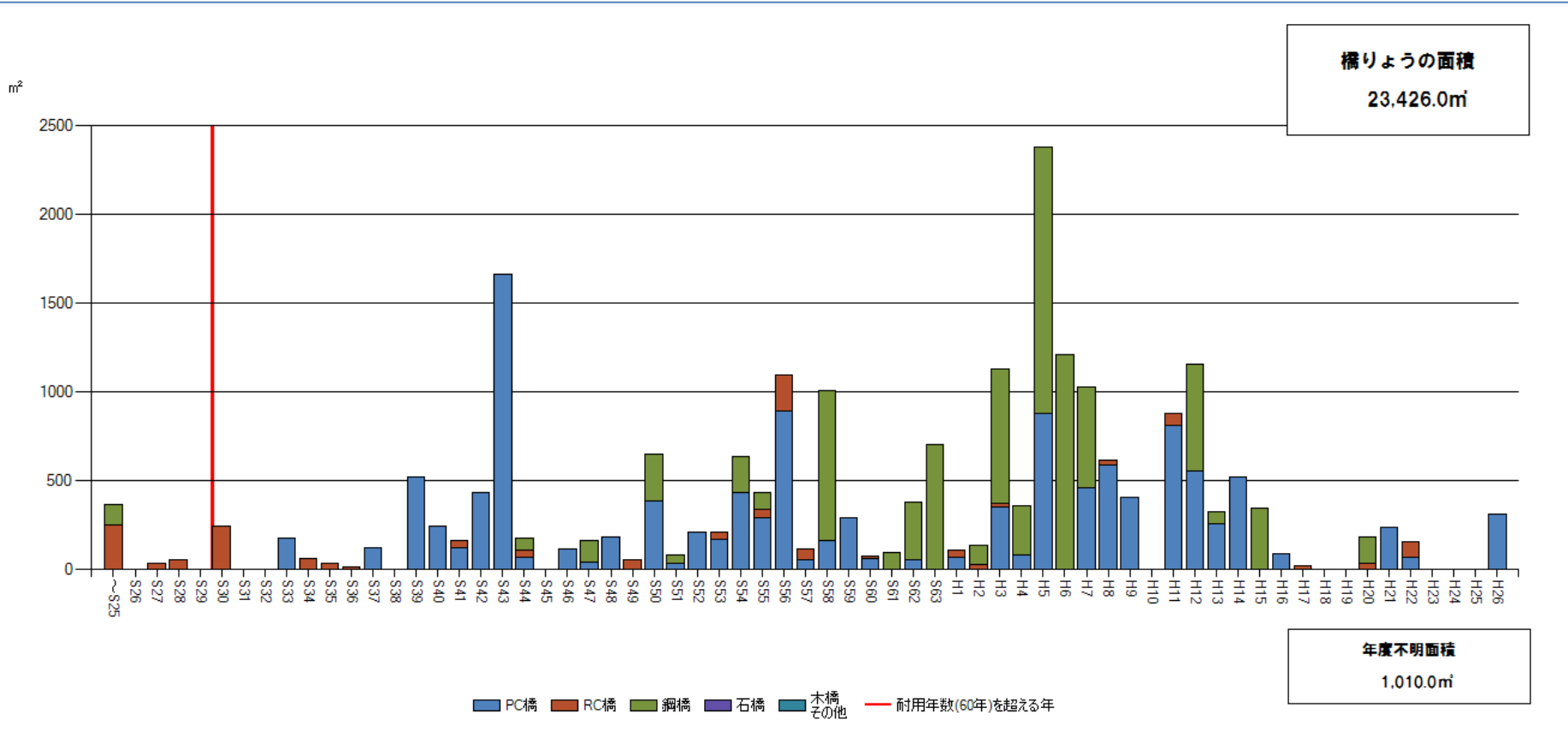
更新年数 15年

- 国土交通白書の舗装耐用年数10年、一般的な供用耐用年数12～20年より、15年に一度全面的に舗装の打換えを行うものとして算出

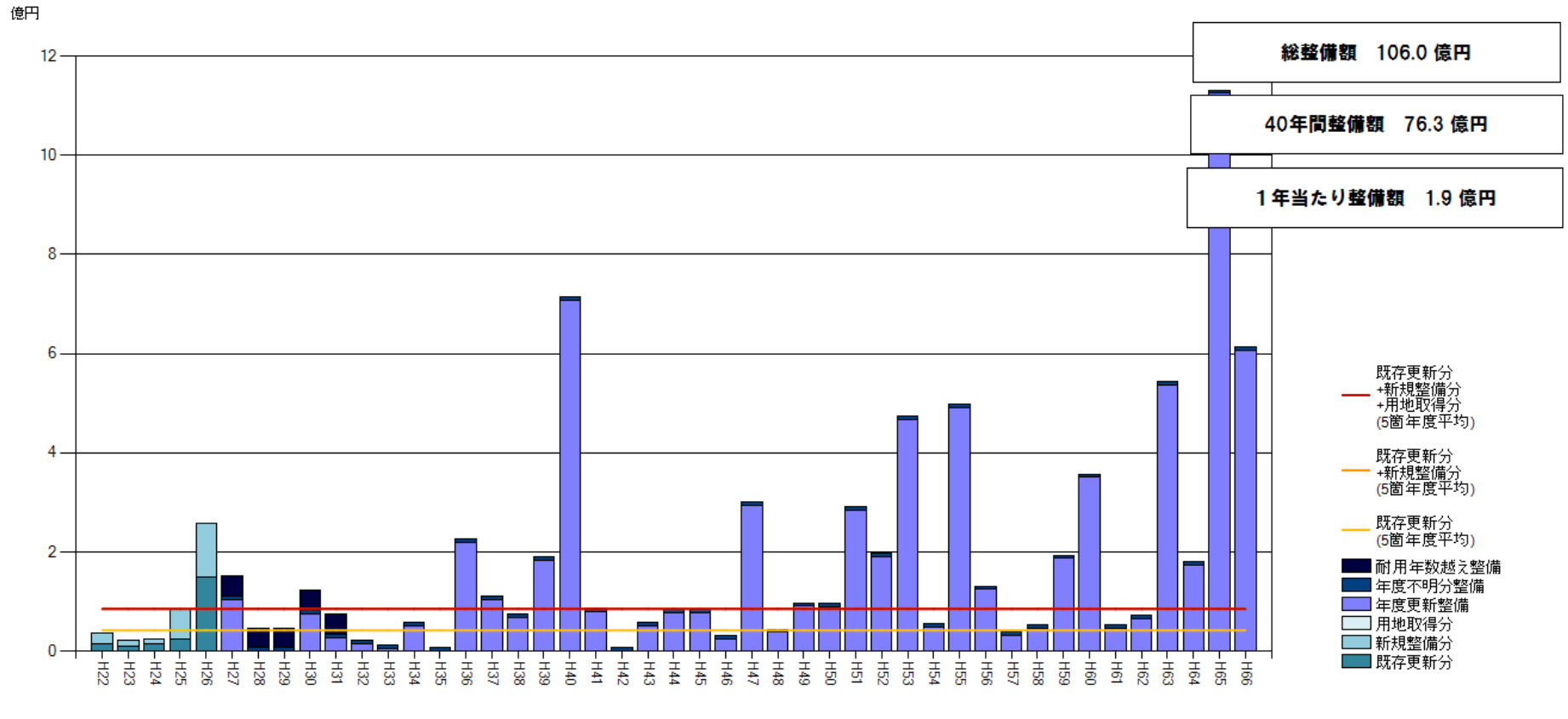
更新単価 4,700円

- 「道路統計年報2009」(全国道路利用者会議)で示されている平成19年度の舗装補修事業費(決算額)を舗装補修事業量で割って算定されたものから設定

橋りょう 構造別年度別整備面積



将来の更新費用の推計(橋りょう)

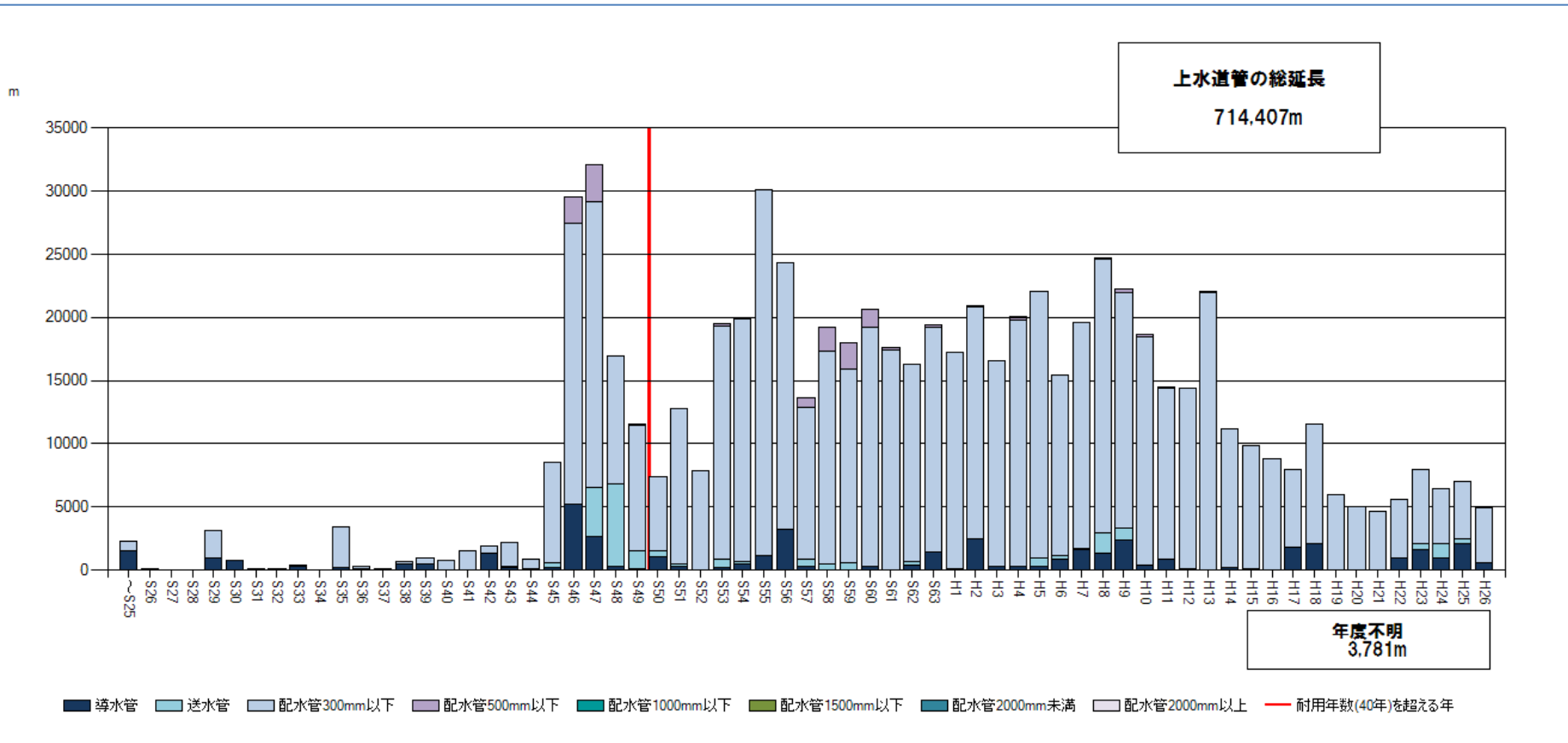


更新年数 60年(積み残し 5年)

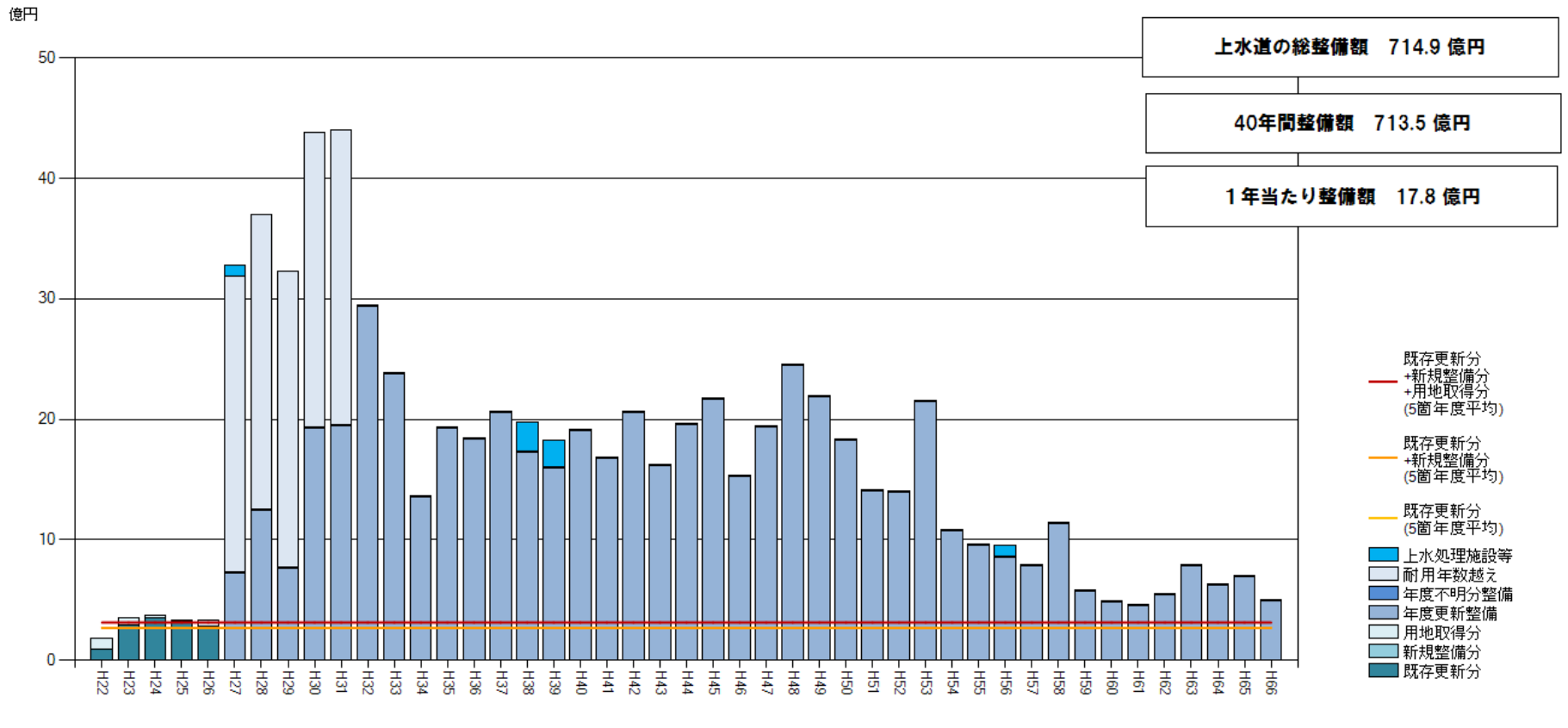
- ・法定耐用年数より、構築年度から60年で全面更新するものとして算出
- ・現在、構造が鋼橋であるものは鋼橋で更新するが、それ以外の構造の場合はPC(プレストレスト・コンクリート)橋として更新していくことが一般的なため、これを前提とする。

- 更新単価
- ・PC橋、RC橋、石橋、木橋 425千円/㎡
 - ・鋼橋 500千円/㎡

上水道 管径別年度別整備面積



将来の更新費用の推計(上水道)



更新年数 40年

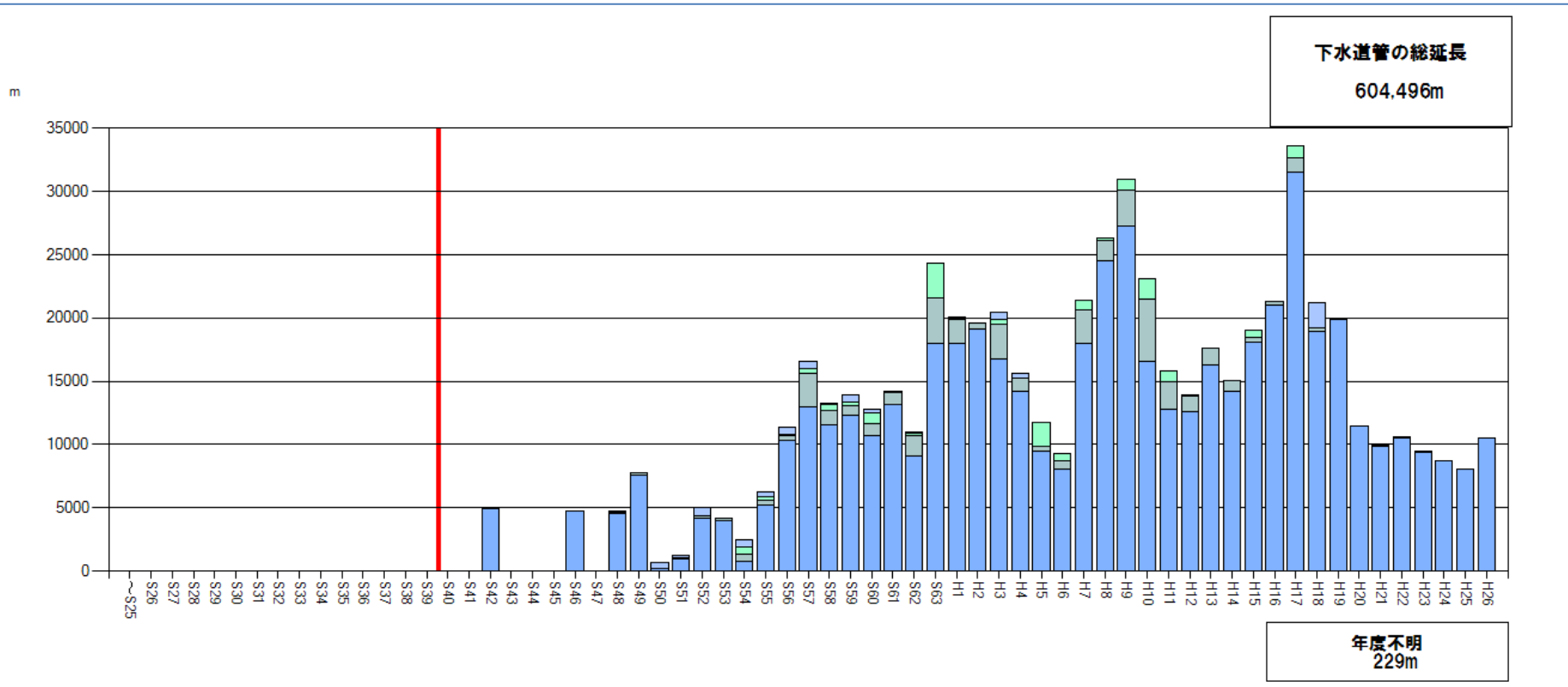
・法廷耐用年数より、構築年度から40年で更新するものとして算出。

更新単価 「道水管、送水管」 管径により100千円/m ~ 923千円/m

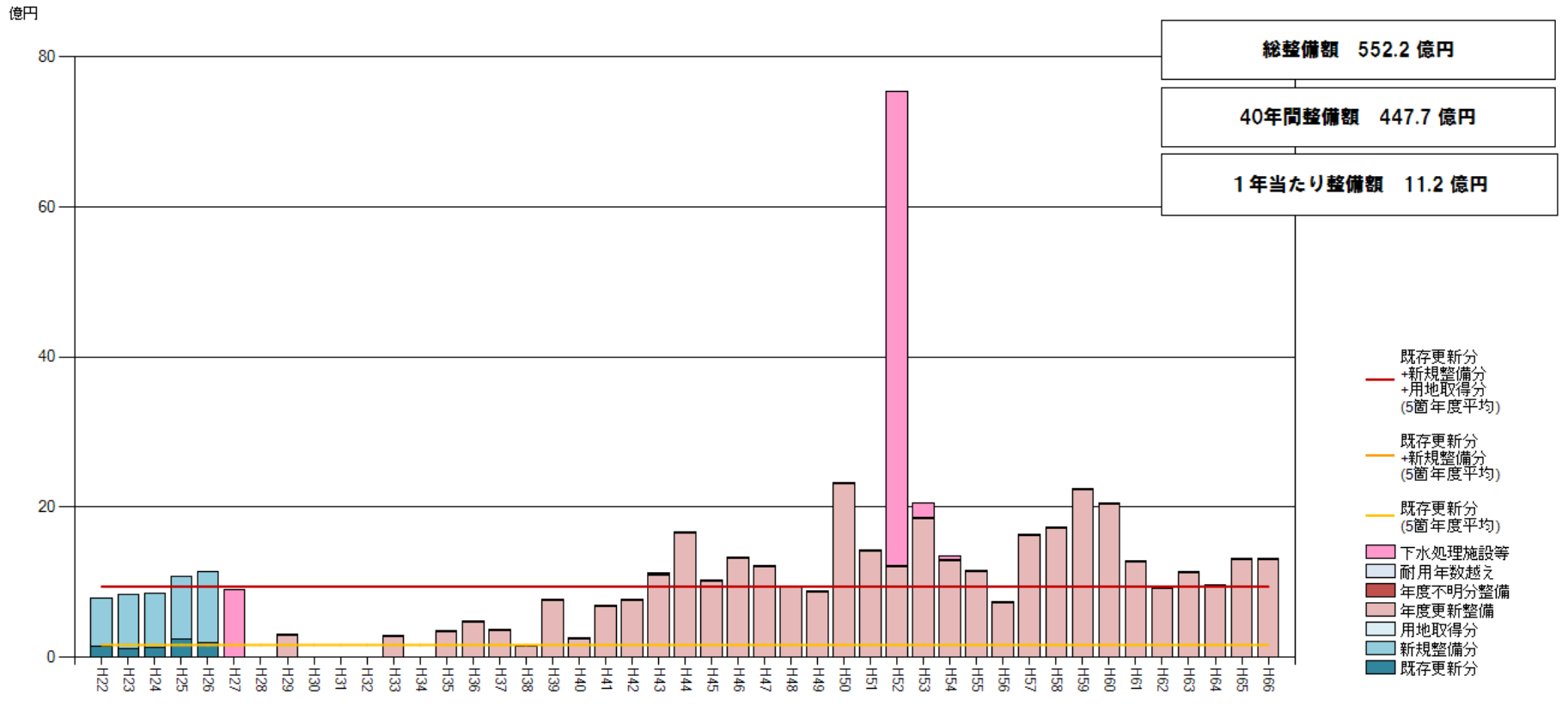
「配水管」 管径により97~923千円/m

・施設については、公共施設に基づく

下水道 管径別年度別整備面積



将来の更新費用の推計(下水道 管きよ + 施設)



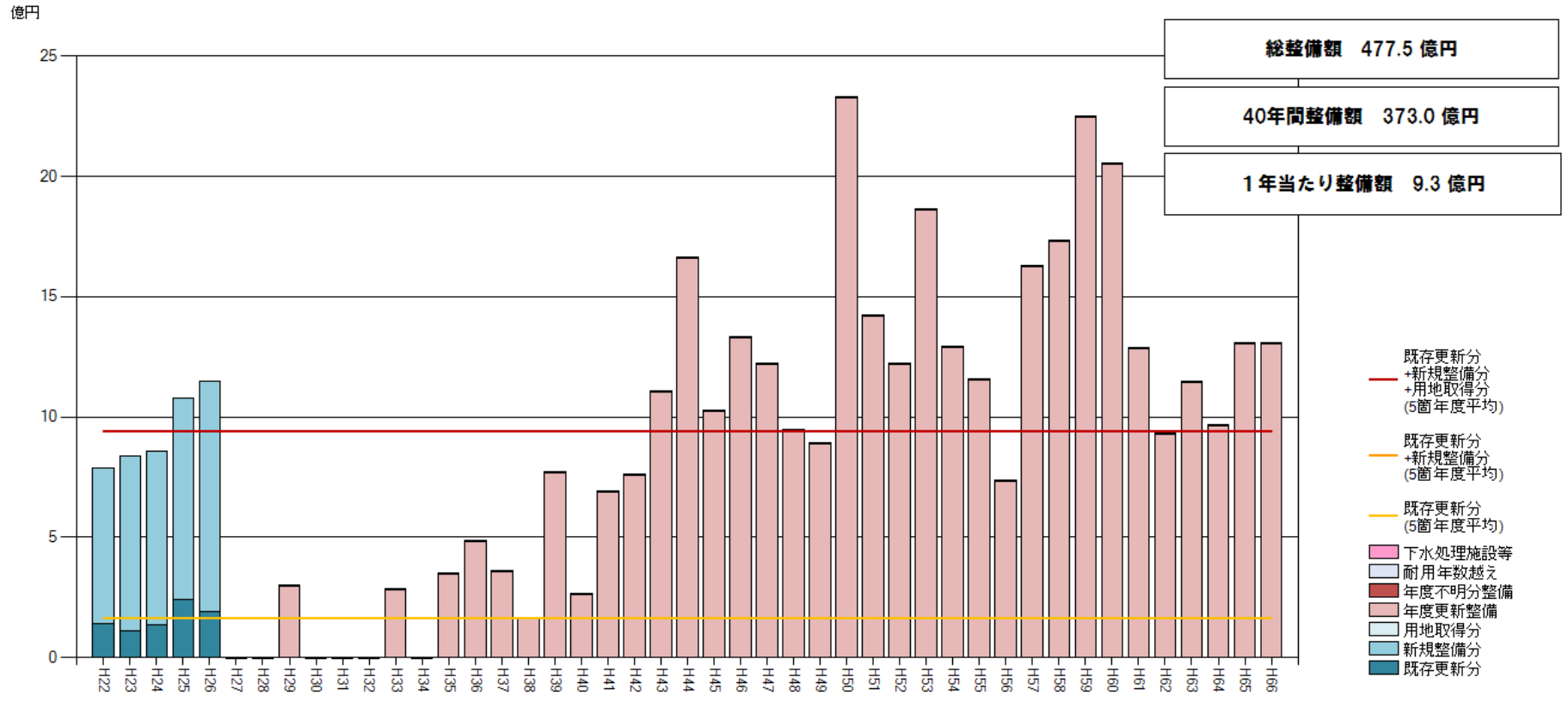
更新年数 50年

・法廷耐用年数より、構築年度から50年で更新するものとして算出。

更新単価 管径により61千円/m ~ 2,347千円/m

・施設については、公共施設に基づく

将来の更新費用の推計(下水道 管きよのみ)



更新年数 50年

・法廷耐用年数より、構築年度から50年で更新するものとして算出。

更新単価 管径により61千円/m ~ 2,347千円/m

都市公園整備状況及び面積の推移

